

第2回

日常の活動は 学会発表に値する

日本公衆衛生学会理事・評議員
（一財宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長
小島 光洋

学会に入会すると、学術大会などで研究発表をすることができます。研究というと腰が引けてしまいそうになりますが、「新たな知識を生み出す活動」や「科学的な知識の利用および活用」のことです。日々の健康運動指導で行っている創意工夫、指導した後の反省と次回への改善策の検討など、指導者として普段当たり前に行っている活動が研究そのものなのです。

それでは発表することで、どのようなメリットが生まれるのでしょうか？最大のメリットは、他の人と意見を交換することができることです。自分では気づかなかった誤りを発見し訂正することができます。また、有益な助言や励ましをいただくことがあります。

講演やシンポジウムを聴くと、最新のトピックスや最先端の知識に触れることができます。一方、他の人の発表からは、現場から得られた新しい知見を見ることができます。これらはまだ粗削りかもしれませんが、新鮮で今後の発展の可能性を秘めた素材です。講演などで話される整理された知識は、このような一つひとつの現場の知見が集まって生まれたものです。発表をすることは、自分のためばかりでなく、社会にも貢献することになります。

学会で発表することを通じて、最初に述べた創意工夫や改善策の検討を確実に行うことができます。「自分の仕事をしっかり他人に伝える」、専門職の基本を実践する場が研究発表です。積極的に活用していきましょう。